

最終評価シート（案）

最終評価（表紙）

岡崎市 歴史的風致維持向上計画（平成28年5月19日認定） 最終評価（平成28年度～令和7年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
Ⅰ 歴史文化資産の調査研究と普及啓発の推進	3
Ⅱ 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援	4
Ⅲ 歴史的建造物の保存・活用の推進	5
Ⅳ 歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成	6
Ⅴ 歴史文化遺産を活かした地域活性化や観光振興の展開	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
ⅰ 市民意識や認知度の向上	8
ⅱ 歴史的建造物の修理・修景、活用の促進	9
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 岡崎城跡発掘等調査事業	10
B 歴史的建造物修理・修景事業	11
C サイン・案内板整備事業	12
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 家康公生誕の地にみる歴史的風致	13
2 東海道を舞台にした信仰・祭礼等にみる歴史的風致	14
3 滝山寺鬼祭りにみる歴史的風致	15
4 岡崎城下の三大祭りにみる歴史的風致	16
5 郷土食の八丁味噌造りにみる歴史的風致	17
6 六ツ美地区の稲作儀礼にみる歴史的風致	18
7 額田地区の山里の暮らしにみる歴史的風致	19
■ 庁内体制シート（様式6）	20
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	21
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	22

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	家康公生誕の地にみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	
2	東海道を舞台にした信仰・祭礼等にみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	
3	滝山寺鬼祭りにみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	
4	岡崎城下の三大祭りにみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	
5	郷土食の八丁味噌造りにみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ	
6	六ツ美地区の稲作儀礼にみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
7	額田地区の山里の暮らしにみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史文化資産の調査研究と普及啓発の推進		
Ⅱ	歴史や伝統を反映した活動の継承への支援		
Ⅲ	歴史的建造物の保存・活用の推進		
Ⅳ	歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成		
Ⅴ	歴史文化資産を活かした地域活性化や観光推進の展開		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	市民意識や認知度の向上		
ii	歴史的建造物の修理・修景、活用の促進		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	岡崎城跡発掘等整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	歴史的建造物修理・修景事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	サイン・案内板整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
方針	i 歴史文化資産の調査研究と普及啓発の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】市内には、地域においてのみ認識されている歴史文化資産が数多く存在する。これらは、身近なものであるにもかかわらず、学術的な調査や検証が不十分な面もあり、その価値や魅力に気づいていないものも多い。

【方針】岡崎の歴史文化の価値や魅力をテーマごとに編集・整理し、広く効果的に情報発信することに加え、歴史的な建造物や伝統行事等への市民等の理解の普及啓発に努め、歴史まちづくりに対する市民意識の向上を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	岡崎城跡発掘等調査事業	発掘調査11箇所、現地説明会13回開催	あり	S55～
2	文化財保存活用地域計画策定事業	文化財保存活用地域計画の策定	あり	H28～
3	郷土読本作成等事業	郷土読本の改訂・発行（発行数約16,000冊／年）	あり	S5～
4	歴史学習教室等事業	文化財教室（46回）・歴史まちづくりシンポジウム（4回）開催、歴史まちづくりPR動画（5本）制作	あり	S41～
5	案内人養成・支援事業	観光ガイド等の案内人の養成研修80回開催	あり	H9～
6	歴史的建造物実態調査事業	歴史的建造物マイスター55名育成、古民家等の実態調査の実施（15,659件）	あり	H28～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【岡崎城跡発掘等調査事業（図1）】
計画的に発掘調査を進めることにより城郭の全容把握に近づくことができた。また、現地説明会の開催や発掘調査の記録動画の公開等により、住民の意識が高まり岡崎城跡の価値向上を図ることができた。

【文化財保存活用地域計画策定事業】
市民アンケートや文化財所有者等へのヒアリング等の実施、附属機関での協議を行い、文化財保存活用地域計画を策定した。本計画により、文化財の保存・活用に関する方針と措置を取りまとめることができた。

【郷土読本作成等事業】
小中学校の郷土読本の毎年改定発行や、各小学校区協力による「岡崎まちものがたり」の作成発行により、地域に対する誇りや愛情を醸成することができた。

【歴史学習教室等事業（図2）】
文化財教室やシンポジウムの開催、歴史的風致PR動画の公開等により、本市の歴史まちづくりへの理解等を深めることができた。

【案内人養成・支援事業（図3）】
観光ガイド等の案内人を養成し、ガイド活動を行うことにより、岡崎市の歴史文化資産の奥深い理解や認知度の向上を図ることができた。

【歴史的建造物実態調査事業】
歴史的建造物の保存技術の向上や、継承する人材育成のための専門家を養成し、歴史的建造物の調査研究を推進することができた。

④ 自己評価

発掘調査等により、岡崎城跡の歴史的価値を高めることができた。また、現地説明会、歴史まちづくりシンポジウム等による情報発信により、岡崎市の歴史文化資産に対する市民や来訪者の理解度の向上等の普及啓発を推進することができた。

⑤ 今後の対応

引き続き、岡崎城跡の発掘調査及び現地説明会の開催、歴史文化資産の案内人養成等による情報発信を行うとともに、今後は、調査結果のまとめと活用や、歴史まちづくりへの参加機会の提供について検討し、歴史まちづくりに対する市民意識や認知度の向上を図る。



図1：坂谷曲輪発掘調査現地説明会（R6/3/10）の様子



図2：歴史まちづくりシンポジウム（R1/11/17）の様子



図3：おかざき観光ガイドによる案内の様子

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
方針	ii 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】長い歴史の中で形を変えながらも現在に受け継がれている祭礼等の伝統行事や伝統産業が今も市内各地で数多く営まれている。特に、伝統工芸品は、その歴史や価値についての理解や周知が十分に進んでいるとはいえず、少子高齢化等による後継者不足も課題となっている。

【方針】活動の継承のために必要となる実態調査や記録作成等について支援を行い、担い手となる後継者の育成につなげる。伝統工芸品の価値や魅力等を発信する場を確保し、広く周知を図るとともに、若い世代がこれらを体験できる機会を設け、後継者を育成する環境づくりに努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無形民俗文化財等調査支援等事業	国、県及び市指定無形民俗文化財等の活動支援(61件)、瀧山寺鬼祭り調査報告書及び記録映像作成	あり	H15～
2	伝統的技術・活動継承支援等事業	伝統産業・地場産業の展示・紹介・実演(32回)	あり	H12～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【無形民俗文化財等調査支援等事業(図1)】

無形民俗文化財の調査報告書及び記録映像を制作することにより、本来の祭礼の意味等を記録として残すことができた。

また、国、県及び市指定無形民俗文化財等の保存育成に対して、活動費等の一部を支援した。

さらに、歴まち計画に記載された歴史的風致のうち50年以上続く歴史や伝統を反映した活動に対して費用の一部を支援し、指定文化財や未指定文化財に対して担い手の育成や次世代への継承を図ることができた。

【伝統的技術・活動継承支援等事業(図2、3)】

伝統的工芸品に指定されている「岡崎石工品」「三河仏壇」にかかわる組合が実施する事業について、補助金を交付し、伝統産業の価値や魅力を広く周知することができた。また、親善都市等に石製品を寄贈、周知することにより、岡崎石工品の需要の開拓や地場産業振興につなげることができた。

観光客が多く訪れる市内や県外のスポットで、岡崎の石工品、三河仏壇を始めとした伝統工芸品及び郷土伝統工芸品等の展示、紹介及び実演を行った。

さらに、岡崎が誇る石工職人の匠の技による徳川四天王の石像4体が完成することで、岡崎市のPRや伝統産業及び地場産業の振興を図ることができた。

図1:「瀧山寺鬼祭り」調査報告書(H27～29)

図2:ゆかりのまち・関ヶ原町に寄贈した石製品のベンチ(R4)

図3:徳川四天王像(R2/3)
(上段:本多忠勝、酒井忠次
下段:榊原康政、井伊直政)

④ 自己評価

指定文化財だけでなく、未指定も含めた民俗文化財や伝統的な技術や技法を継承するものに対して、その活動にかかる経費や、地域固有の歴史や伝統を反映した人々の活動を支援することにより、担い手の育成や確保、地域の活性化に寄与することができた。

⑤ 今後の対応

今後も、未指定を含めた民俗文化財や伝統産業等、歴史や伝統を反映した活動の継承等に対する支援を継続的に行いながら、継承団体等との連携を強化し、それぞれの実情に応じた新たな支援策とともに模索することにより、担い手の育成や次世代への継承につなげ、伝統産業及び地場産業の振興を図っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
方針	iii 歴史的建造物の保存・活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】文化財行政と景観行政の両面から、歴史的建造物の保存・活用のための支援を行ってきたが一部にすぎない。これ以外の多くは行政による保護の対象とはなっておらず、その価値が十分に認識されないまま取り壊されるなど多くの課題を抱えている。

【方針】すでに文化財の指定等の措置が講じられているものは、引き続き、適切に保存管理する。未指定の歴史的建造物は、実態を把握するための調査を推進し、文化財、景観重要建造物、歴史的風致形成建造物の指定等を検討するなど新たな価値付けを行い、その保存・活用を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	岡崎城跡(岡崎城公園)整備事業	170面の石垣の三次元測量	あり	H15～
2	文化財建造物保存修理事業	8件の保存修理補助	あり	H27～
3	歴史的建造物修理・修景事業	20件の修理修景補助	あり	H24～
4	歴史的建造物復元等整備事業	5基の岡崎城総構え位置表示解説板設置、菅生川端石垣の復原整備、旧本宿村役場の復原整備	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【岡崎城跡(岡崎城公園)整備事業(図1)】

「岡崎城跡整備基本計画」を策定し、岡崎城跡の石垣について、三次元測量を行い、石垣の歴史的価値を活かす資料を得ることができた。さらに、石垣から生育している樹木や岡崎城の景観を阻害している樹木を伐採し、石垣の保護や岡崎城の魅力向上に努め、歴史的価値の維持向上を図ることができた。



図1：天守台石垣前樹木伐採(R5)

【文化財建造物保存修理事業(図2)】

国・県・市の指定を受けている文化財建造物(六所神社社殿、大樹寺鐘楼等)の保存修理費の支援を行い、歴史的風致の核となる建造物の保全を図ることにより、歴史的景観の向上を図ることができた。



図2：六所神社社殿の塗替補修(H26～29)

【歴史的建造物修理・修景事業(図3)】

景観重要建造物(13件)及び歴史的風致形成建造物(6件)の修理・修景に係る経費を支援することにより、良好なまちなみ景観の形成を図ることができた。また、旧富田家住宅は、修理・修景後の建造物を郷土史資料展示室やレストラン(テナント)として活用し、新たな魅力を発信することができた。



図3：旧富田家住宅(主屋)修理・修景(H30)

【歴史的建造物復元等整備事業(図4)】

岡崎城跡菅生川端石垣の復原や石垣を間近で見るための園路整備、発掘調査結果等を踏まえた解説板の設置等により、岡崎城跡の城郭規模が体感できる整備を行い、市街地の魅力向上を図ることができた。また、旧本宿村役場の復原により、地域に対する誇りと愛着の醸成に寄与した。



図4：総構え位置表示解説板

④ 自己評価

市指定史跡である岡崎城跡や文化財建造物を始めとした歴史的建造物の保存修理・修景を行うことにより、歴史的なまちなみ景観等の維持向上を図ることができた。また、修理・修景後の歴史的建造物を活用し、地域活性化に寄与することができた。一方で、歴史的建造物の空き家の増加や継続的な維持管理等、様々な課題が残されている。

⑤ 今後の対応

歴史的風致の維持・向上の核となる歴史的建造物の保存修理・修景に対する支援を継続するとともに、先端技術の活用や民間活力の導入等により、歴史的建造物の持続的な保存・活用を図っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
方針	iv 歴史的建造物の周辺等における 良好な市街地景観の形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的建造物の周辺では、屋外広告物や電柱電線類による景観の阻害も多く、歴史的風致の魅力を減退させる一要因となっている。周辺の空き地が中高層建築物や駐車場へ転用され、結果的に歴史的風致の維持向上を図ることができない。

【方針】景観形成重点地区の指定により、建築物等の形態意匠の規制・誘導を図るとともに、建築物等の外観修景や景観阻害要素の除去、道路の美装化や無電柱化など景観上の改善を図る事業を進め、歴史的建造物の周辺市街地の景観形成に規制と事業の両面から取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無電柱化事業	八丁地区景観形成重点地区内の市道2路線の無電柱化整備工事、岡崎市無電柱化推進計画の策定	あり	R1～
2	道路美装化事業	市道材木町6号線(旧東海道)の道路美装化整備	あり	H29～
3	まちなみ景観整備事業	外観修景に対する支援(28件)	あり	H28～
4	景観阻害要素除去事業	支障移転の実施(電柱1本、電線12本)	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【無電柱化事業(図1)】
八丁地区景観形成重点地区内の市道2路線において、電線共同溝整備を行い、歴史的景観の向上を進めることができた。

【道路美装化事業】
「東海道岡崎城下二十七曲り」にあたる市道について、岡崎城跡整備委員会(附属機関)で整備内容を審議した上で、岡崎産花崗石を使用した脱色アスファルト舗装を整備し、景観の向上を図ることができた。

【まちなみ景観整備事業】
景観形成重点地区内の建築物や工作物の建築行為等に対する景観規制及び外観修景(屋根瓦の葺替え、外壁の模様替え、木製目隠しの新設等)への支援を行うことにより、地区内の良好な景観形成を図ることができた。

【景観阻害要素除去事業(図2)】
大樹寺から岡崎城天守への眺望景観の支障となっている電線や電柱の移設を行い、歴史的景観の向上を図ることができた。

図1：市道中岡崎8号線の無電柱化（イメージ図）

<移設前(H29)>

<移設後(R6)>

図2：電線・電柱の移設による
大樹寺から岡崎城天守への眺望景観の
変化

④ 自己評価

良好な景観形成を図る地区において、無電柱化や電線・電柱の移設、建築物等の外観修景により、景観上の改善が図られ、歴史的景観に見合った良好な市街地景観の形成を進めることができた。また、岡崎城跡整備委員会の開催を通じ、整備内容の検討を行ったことで、事業における空間デザインの質を高め、歴史的景観の向上を図ることができた。

事業の継続により、良好な景観形成が見込まれる。

⑤ 今後の対応

引き続き、景観形成重点地区内において、無電柱化や道路美装化、まちなみ修景等の事業を実施し、歴史的建造物とその周辺の一体的な歴史的景観の維持向上を図るなど、歴史的風致の構成要素である良好な市街地環境の整備を行っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
方針	V 歴史文化資産を活かした 地域活性化や観光振興の展開	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】都市部から山間部に至るまで、数多くの歴史文化資産に恵まれているが、その多くは歴史や伝統の価値が十分に認識されておらず、市民の誇りと愛着の源泉となることはもとより、本市の魅力を高め、地域活性化や観光振興に寄与する可能性についても理解が十分とは言えない。

【方針】歴史文化資産の確実な保存を前提に、再編集し物語化するなどの更なる価値付けや魅力づくりを通じて、地域活性化や観光振興の面からも活かしていくことは、その役割や可能性を高め、保存・活用を一層進めることにもつながるため、これらに磨きをかけるまちづくりを展開する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	サイン・案内板整備事業	歴史文化資産解説板等整備・多言語化（63基）、まちなか案内サイン整備（29基）	あり	H6～
2	観光拠点施設整備事業	旧本宿村役場復原整備	あり	H28～
3	観光受入環境整備事業	バスツアー（利用者5,565人）・観光タクシー（利用者256人）催行	あり	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【サイン・案内板整備事業（図1）】

歴史文化資産の価値と魅力をわかりやすく情報発信するための解説板や、まちなかをわかりやすく快適に巡るための案内サインの整備を行うことができた。解説板や案内板の整備にあたっては、岡崎城跡整備委員会や岡崎景観審議会等の附属機関で整備内容を審議した。さらに、多言語化や通信機器への対応について、ICT技術の活用を踏まえた整備を行うことができ、来訪者等の理解や認知度、回遊性の向上を図ることができた。

【観光拠点施設整備事業（図2）】

旧本宿村役場を資料館として復原し、東部地域の歴史文化を紹介することにより、歴史的価値及び魅力の向上を図ることができた。

【観光受入環境整備事業（図3）】

文化財所有者や旅行事業者等と連携し、市内に点在する歴史文化資産をストーリー性のある観光ルートとしてつなぎ、旅行商品（市内回遊バスツアー、観光タクシー、回遊クーポン等）を造成・販売した。

また、外国人観光客の受入れ策として、案内ガイドの養成や体験プログラムの造成・販売、在日外国人によるモニターツアーを実施した。

図1：歴史文化資産解説板

図2：旧本宿村役場（R4復原）

図3：観光タクシー（R6/3/22～5/31）

④ 自己評価

歴史文化資産解説板やまちなか案内サインの整備、解説の多言語化にあたっては、審議会等において整備内容の検討を行ったことで、各種事業における空間デザインの質を高めるとともに、これらの整備により、来訪者への歴史文化資産の理解度や認知度、回遊性の向上を図ることができた。

また、ツアー造成や多言語観光ガイドによる観光情報発信等を行い、ツアー後のアンケート調査では、回答者の約80%が評価5（5段階評価中）と回答しており、国内外の観光客の利便性や満足度の向上を図ることができた。

⑤ 今後の対応

広域に点在する歴史文化資産や新たな地域資源等を活かすよう、市内回遊バスツアーの内容見直しや外国人向けの観光受入環境の整備を進め、来訪者の利便性や満足度の向上を図っていく。また、サイン・案内板の整備を継続して行い、誰にでもわかりやすい解説や案内に努め、市民や来訪者の理解の促進及び回遊性の向上を図っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年																																																			
効果	i 市民意識や認知度の向上																																																					
① 効果の概要 特に「家康公生誕の地にみる歴史的風致」を構成する要素への市民意識や認知度が向上した。																																																						
② 関連する取り組み・計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>徳川家康公像、徳川四天王像、四神像の設置</td> <td>なし</td> <td>R1、R2、R6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「家康公検定」、「徳川家康公作文コンクール」の実施 （「家康公検定」はH28まで市主催）</td> <td>なし</td> <td>H22～／H16～</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>歴史文化資産のライトアップやプロジェクションマッピングの実施</td> <td>あり</td> <td>H21（試験）～R7</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>乙川リバーフロントQURUWA戦略地区整備計画、 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画-QURUWA戦略-</td> <td>あり</td> <td>H27～R2、 H29～</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>岡崎市観光基本計画、第2次岡崎市観光基本計画</td> <td>あり</td> <td>H28～R5、R6～</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	徳川家康公像、徳川四天王像、四神像の設置	なし	R1、R2、R6	2	「家康公検定」、「徳川家康公作文コンクール」の実施 （「家康公検定」はH28まで市主催）	なし	H22～／H16～	3	歴史文化資産のライトアップやプロジェクションマッピングの実施	あり	H21（試験）～R7	4	乙川リバーフロントQURUWA戦略地区整備計画、 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画-QURUWA戦略-	あり	H27～R2、 H29～	5	岡崎市観光基本計画、第2次岡崎市観光基本計画	あり	H28～R5、R6～																											
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																																																			
1	徳川家康公像、徳川四天王像、四神像の設置	なし	R1、R2、R6																																																			
2	「家康公検定」、「徳川家康公作文コンクール」の実施 （「家康公検定」はH28まで市主催）	なし	H22～／H16～																																																			
3	歴史文化資産のライトアップやプロジェクションマッピングの実施	あり	H21（試験）～R7																																																			
4	乙川リバーフロントQURUWA戦略地区整備計画、 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画-QURUWA戦略-	あり	H27～R2、 H29～																																																			
5	岡崎市観光基本計画、第2次岡崎市観光基本計画	あり	H28～R5、R6～																																																			
③ 効果発現の経緯と成果 ●岡崎市市民意識調査（R6/10/18～11/8実施、回答数2,752人）（図1） 「岡崎市はどのようなまちだと思いますか」という質問に対し、「歴史や伝統が感じられるまち」と答えた人が53.7%と最も高かった。 ●徳川家康公像等の設置 本市の玄関口である東岡崎駅北口に、「徳川家康公像（R1）」及び「四神像（R6）」が、総製作費に迫る多くの企業や個人の寄附により完成した。中央緑道に完成した「徳川四天王像（R2）」とともに、徳川家康公の生誕地である本市の新たなシンボルとなった。 ●光のビスタラインとライトアップ等の実施 「光のビスタライン」は、徳川将軍家菩提寺の大樹寺から約3km南にある岡崎城天守への眺望景観を光の線でつなぐイベントとして、5回開催した。令和元年には、家康公顕彰をテーマとする「家康公生誕祭」の大樹寺のライトアップと併せて実施した。また、徳川家康公の産土神である六所神社でもライトアップを行い、市内外から多くの市民や観光客が訪れ（総来場者数：2,548名）、歴史的風致の認知度が向上した。																																																						
図1：岡崎市市民意識調査 「岡崎市はどのようなまちだと思うか？」 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>n</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歴史や伝統が感じられるまち</td> <td>1,479</td> <td>53.7</td> </tr> <tr> <td>バランスのとれた暮らしやすいまち</td> <td>984</td> <td>35.8</td> </tr> <tr> <td>水や緑などの自然が豊かなまち</td> <td>913</td> <td>33.2</td> </tr> <tr> <td>交通の利便性が高いまち</td> <td>371</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>多くの人が訪れるにぎわいのあるまち</td> <td>358</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>子育てがしやすいまち</td> <td>309</td> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td>医療サービスが充実したまち</td> <td>304</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>ものづくり産業が盛んなまち</td> <td>265</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>学校教育が充実したまち</td> <td>251</td> <td>9.1</td> </tr> <tr> <td>文化・芸術・スポーツなどが盛んなまち</td> <td>232</td> <td>8.4</td> </tr> <tr> <td>地域のつながりが強いまち</td> <td>225</td> <td>8.2</td> </tr> <tr> <td>景観や街並みが美しいまち</td> <td>217</td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>商業やサービス業の発達したにぎわいのあるまち</td> <td>197</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td>高齢者や障がい者が暮らしやすいまち</td> <td>105</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>防災対策が行き届いたまち</td> <td>81</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>不明・無回答</td> <td>97</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table>				項目	n	%	歴史や伝統が感じられるまち	1,479	53.7	バランスのとれた暮らしやすいまち	984	35.8	水や緑などの自然が豊かなまち	913	33.2	交通の利便性が高いまち	371	13.5	多くの人が訪れるにぎわいのあるまち	358	13.0	子育てがしやすいまち	309	11.2	医療サービスが充実したまち	304	11.0	ものづくり産業が盛んなまち	265	9.6	学校教育が充実したまち	251	9.1	文化・芸術・スポーツなどが盛んなまち	232	8.4	地域のつながりが強いまち	225	8.2	景観や街並みが美しいまち	217	7.9	商業やサービス業の発達したにぎわいのあるまち	197	7.2	高齢者や障がい者が暮らしやすいまち	105	3.8	防災対策が行き届いたまち	81	2.9	不明・無回答	97	3.5
項目	n	%																																																				
歴史や伝統が感じられるまち	1,479	53.7																																																				
バランスのとれた暮らしやすいまち	984	35.8																																																				
水や緑などの自然が豊かなまち	913	33.2																																																				
交通の利便性が高いまち	371	13.5																																																				
多くの人が訪れるにぎわいのあるまち	358	13.0																																																				
子育てがしやすいまち	309	11.2																																																				
医療サービスが充実したまち	304	11.0																																																				
ものづくり産業が盛んなまち	265	9.6																																																				
学校教育が充実したまち	251	9.1																																																				
文化・芸術・スポーツなどが盛んなまち	232	8.4																																																				
地域のつながりが強いまち	225	8.2																																																				
景観や街並みが美しいまち	217	7.9																																																				
商業やサービス業の発達したにぎわいのあるまち	197	7.2																																																				
高齢者や障がい者が暮らしやすいまち	105	3.8																																																				
防災対策が行き届いたまち	81	2.9																																																				
不明・無回答	97	3.5																																																				
④ 自己評価 市民意識調査により、歴史や伝統が感じられるまちとして認知されていることがわかった。 「徳川家康公」をテーマに、「光ビスタライン」や「大樹寺及び六所神社のライトアップ」のようなイベントを絡めた取り組みは、幅広い年齢層の人々の関心を惹きつけ、大勢の市民や観光客を集客することができ、歴史的風致の認知度を向上する良い機会となった。																																																						
⑤ 今後の対応 これまで開催してきたイベント等の普及啓発事業について、アフター大河等の様々な情勢を踏まえ、より最適な方法を模索しながら、今後も継続して実施し、歴史的風致を構成する各種要素に対する市民意識や認知度の向上を図っていく。																																																						

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年			
効果	ii 歴史的建造物の修理・修景、活用の促進					
① 効果の概要 民間資金の導入や地域経済循環創造事業、歴史的風致形成建造物の制度を活用した、公民連携による歴史的建造物の修理・修景、活用を行った。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	地域経済循環創造事業	なし	H30			
2	歴史的建造物修理・修景事業	あり	H28～			
歴史的建造物である「旧富田家住宅（主屋・土蔵）」については、歴史的風致形成建造物への指定や、地域経済循環創造事業交付金（ローカル10,000プロジェクト）、地域金融機関からの融資、市による補助制度等を活用し、建造物の修理・修景を行った。公は「制度支援」など、民は「資金やノウハウの提供」など、それぞれの強みを活かした公民連携により歴史的建造物を再生・利活用できる事業スキームを構築し、地域の良好な歴史的景観を保全することができた。						
③ 効果発現の経緯と成果 歴史的建造物の修理・修景には、多額の経費を必要とし、全てを公的資金又は公有化等により、行政が負担するには限界（市補助限度額300万円）がある。また、修理・修景後の活用についても課題を抱えている。 「旧富田家住宅（主屋・土蔵）」は、歴史的風致形成建造物に指定後（H29）、内閣府のアドバイザー支援を受けながら、岡崎市歴史的風致形成建造物補助金による修理・修景のほか、地域経済循環創造事業交付金や民間資金の導入により大規模改修を行い（H30）、郷土史資料展示室や地元食材を使った料理を提供するレストラン（テナント）として再生し、観光誘客及び飲食施設として活用されている。 また、修理・修景の結果、令和2年4月3日に歴史的景観に寄与しているものとして、登録有形文化財に登録された。 これらの公民連携の取り組みの中で、地域の個性となる歴史的建造物が持続的に保存・活用されることにより、歴史的建造物の滅失を防ぎ、良好な歴史的景観の形成、地域活性化を図ることができた。						
  						
大規模改修により再生した「旧富田家住宅」						
④ 自己評価 歴史的風致維持向上計画における歴史的風致形成建造物の指定により、歴史的建造物の価値付けが行われただけでなく、市の補助制度を活用することで建造物の保全が図られたほか、民間のノウハウを導入した建造物の活用につなげることができた。これらの取り組みにより歴史的風致の維持向上を図ることができた。						
⑤ 今後の対応 歴史的建造物の保全については、公的支援に加え、民間資金やノウハウのより一層の活用による公民連携の中で歴史的建造物が持続的に保存・活用される制度の検討を行っていくこととする。						

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
取り組み	A 岡崎城跡発掘等調査事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

城郭遺構の全容を把握するため、史跡指定地内・指定地外ともに計画的に発掘調査を実施した。岡崎城跡の価値を高め、保存・活用することを目的に、発掘調査や文献調査などの詳細調査を実施し、発掘調査ごとに現場公開及び現地説明会を実施した。



○ 発掘調査箇所



坂谷曲輪堀発掘調査現地説明会



清海堀発掘調査現地説明会

② 自己評価

史跡指定地内の本丸天守台石垣発掘調査では、三つ葉葵紋の金箔瓦が天守台石垣北面の鏡石手前で出土した。これは、岡崎城では初の発見例である。清海堀発掘調査では石垣の根石が確認され、堀の形状が箱堀であることが確認された。また、史跡指定地外である籠田公園、御旗公園、籠田総門の発掘調査では総堀の痕跡を確認するなど、歴史的価値の解明を進めていくことができた。調査にあたっては、岡崎城跡整備委員会に発掘箇所を諮り、有識者に意見聴取しながら取り進めた。

さらに、発掘調査ごとに現場公開期間を設けるとともに、現地説明会を開催した。説明会には延べ約3,000名が参加し、高い関心を集めることができた。

外部有識者名	瀬口 哲夫（名古屋市立大学名誉教授 岡崎市景観審議会会長）
外部評価実施日	令和7年10月26日

③ 有識者コメント

史跡指定地内・指定地外の調査により、城郭遺構の解明が前進した。また、発掘調査という貴重な機会を捉え、現場公開や説明会を実施するなど、市民等への情報発信にも努め、市民の関心も強い。

今後は、発掘調査と並行して、これまで得られた調査結果をとりまとめ、全容解明に努め、それらをどのように公開、活用していくかについても検討していくべきである。解説板等を設置することにより、調査によって明らかになった情報を市民や観光客が見られるような環境の整備につながることを期待している。

④ 今後の対応

岡崎城跡の全容を把握するために、今後も計画的に発掘調査を進めていく。調査の成果については、現地説明会の開催等を通じて公表し、岡崎城跡の更なる価値付けを行っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
取り組み	B 歴史的建造物修理・修景事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

歴史的建造物の保全は、一般の建築物に比べて費用や手間がかかるため、景観重要建造物（市全域）又は歴史的風致形成建造物（重点区域内）に指定している建造物の外観等の保全に係る修理・修景（耐震補強工事、外壁改修等）に対して支援した。

【支援実績】

●景観重要建造物	●歴史的風致形成建造物
・アイチ味噌溜店舗	・十王堂
・旧石原家住宅（土蔵）	・旧石原家住宅（主屋）
・善立寺（山門、玄関）	・旧富田家住宅（主屋、土蔵）
・日本福音ルーテル岡崎教会	・旧野村家住宅（米屋）
・本光寺（本堂、山門）	・甲山寺本堂（護摩堂）
・旧野村家住宅（米屋）	
・まるや八丁味噌（土蔵）	
・旧平岡家住宅（銭屋）	



<修景前>



<修景後>

旧富田家住宅

② 自己評価

岡崎市景観形成補助金等交付要綱に基づき、所有者や管理者が行う景観重要建造物の外観の保全に必要な修理・修景の費用の一部を支援し、外観の保全を図ることができた（補助件数：14件）。

さらに、岡崎市歴史的風致形成建造物補助金交付要綱及び岡崎市地域経済循環創造事業費（歴史的風致形成建造物活用事業）補助金交付要綱に基づき、歴史的風致形成建造物の保全に必要な修理・修景の費用の一部を支援することにより、建造物の保全を図り、良好なまちなみ景観の形成を図ることができた（補助件数：6件）。特に、「旧富田家住宅」の修理・修景については、「計画の趣旨」「文化的な真正性」「景観」の観点から、登録有形文化財へつながった。

外部有識者名	瀬口 哲夫（名古屋市立大学名誉教授 岡崎市景観審議会会長）
外部評価実施日	令和7年10月26日

③ 有識者コメント

支援を行った景観重要建造物及び歴史的風致形成建造物の多くは、傷んだところを旧状に復す補修工事が行われ、それぞれ適切に工事が行われたことを確認した。中でも、藤川町の旧野村家住宅や十王堂は、地元の子供たちや学生などの参加を得て、修理・修景の一部が行われたのが特徴である。また、本宿町の旧富田家住宅（主屋・土蔵）は、修理・修景事業を得て、レストランや資料室などの活用につながり、東海道沿道の歴史的風致向上に貢献したと考えられる。

今後は、景観重要建造物等に指定されていない歴史的建造物を含めた保全を拡大するとともに、活用が図られるような支援が望まれる。また、市内では、歴史的建造物の空き家化や解体等が増加しているため、未指定の歴史的建造物について調査を行っているが、価値のあるものについては、指定・登録等を進め、支援を行うことにより、保全活用につなげるとよいと考えられる。

④ 今後の対応

引き続き、これまで同様に歴史的建造物が保全されるよう支援を行っていく。一方で、公的支援に加え、民間資金の導入やノウハウの一層の活用による公民連携の中で、歴史的建造物が持続的に保存・活用される制度の導入についても検討を行っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
取り組み	C サイン・案内板整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

岡崎城跡（岡崎城公園）や、かつて岡崎城総構え内であったまちなかの歴史文化資産の周辺など来訪者の多い場所において、誰もがわかりやすい内容での資産の紹介や観光ルート等に関する案内板の新設・改修・修繕を、岡崎城跡整備委員会等の附属機関に諮りながら行った。

また、案内板等の整備にあたっては、多言語化、通信機器への対応について、ICT技術を活用した整備を行った。



岡崎城公園歴史文化資産解説板



QRコードを読み取り
母国語に翻訳されて表示



＜整備前＞ → ＜整備後＞
集約化・統一化
誘導サイン



岡崎城総構え歴史文化資産解説板



まちなか案内サイン

② 自己評価

歴史文化資産解説板等の整備にあたっては、岡崎市景観審議会や岡崎城跡整備委員会に諮り、サインデザインや設置位置、記載内容の真正性等について、有識者の意見聴取を行いながら執り進めた。また、歴史文化資産の価値と魅力をわかりやすく情報発信するため、デザインが不統一であった岡崎城公園や、かつて岡崎城総構え内であった、まちなかの解説板等の刷新（63基）による、歴史的景観の向上とともに、解説の多言語化（5か国6言語）を行い、来訪者等への歴史文化資産の理解や認知度の向上を図った。

さらに、観光客の多いまちなかをわかりやすく快適に巡るため、インバウンドにも対応した案内サインの整備（29基）を行った。案内サイン整備地区中央部の橋梁（歩道、人道橋）を往来する人が増加した（R2時点：5,065人／日（12時間）→R5時点：9,041人／日（12時間））ことから、市民や来訪者の回遊性の向上が図られた。

外部有識者名	瀬口 哲夫（名古屋市立大学名誉教授 岡崎市景観審議会会長）
外部評価実施日	令和7年10月26日

③ 有識者コメント

岡崎城公園内や滝山寺地区等のサイン・案内板の刷新により、来訪者の利便性の向上が図られた。また、各地区において統一されたデザインにすることにより、景観への配慮がなされたことに加え、ICTを活用し、解説文等の多言語化や音声案内が行われるシステムを構築したことにより、インバウンド対応やわかりやすい情報発信に努め、来訪者の歴史文化の理解度の向上に貢献している。

引き続き、市内のサイン・案内板の設置を進めながら、既設サインについては適切な管理が行われることが望まれる。また、AR・VR等の先端技術の導入を検討し、来訪者の更なる理解度及び満足度の向上に寄与する取り組みが行われることを期待する。

④ 今後の対応

景観に配慮し、誰もがわかりやすい内容のサインや案内板等を整備することにより、ネットワークを構築し、理解度や回遊性の向上を図っていく。また、急速に進化するICT技術を最大限に活用し、効果的かつ効率的なサインを構築していくものとする。今後も、有識者からなる景観審議会等の審議を経て、サイン・案内板等の整備を進めていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	1.家康公生誕の地にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進 IV 歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成 V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開		

① 歴史的風致の概要

家康公の遺徳を偲ぶ顕彰活動の代表として、毎年4月上旬の桜まつりの期間中に「家康行列」が行われている。戦にゆかりが深い伊賀八幡宮での出陣式から始まり、中心市街地を練り歩く絢爛豪華な時代絵巻は、岡崎の春の風物詩となり、旧城下町、門前町のまちなみを背景に往時の風情が感じられる一幕である。

3代将軍家光が大樹寺の伽藍を配置、造営する際、神君生誕の地を望めるようにとの想いから誕生した岡崎城天守までの眺望は、家康公への顕彰を空間的に体現する全国的にも珍しい歴史的眺望である。明治維新後に岡崎城が取り壊されると、総門越しに見る岡崎城天守への眺望も存在しなくなってしまったが、市民からの強い要望と厚い寄附を受けて天守が再建され、歴史的眺望も本来の姿を取り戻し、今日まで保全されてきている。

② 維持向上の経緯と成果

●文化財保存活用地域計画の策定

「岡崎市文化財保存活用地域計画」を策定し、「家康公生誕の地岡崎」を関連文化財群に位置付け、その保存活用のための事業を進めることにより、家康公生誕の地にみる歴史的風致の維持向上に寄与した。

●景観阻害要素の除去(図1)

大樹寺から岡崎城天守を望む歴史的眺望(ビスタライン)の支障となっている電柱(1本)と電線(対象15本のうち12本)を移設した。これにより、岡崎城天守への歴史的眺望の本来の姿に近づき、美しい都市景観の確保だけでなく、歴史的風致の向上にも寄与することができた。

●文化財建造物保存修理事業

家康公にゆかりのある六所神社(国指定重要文化財)や松平広忠公御廟所(市指定史跡)等の保存修理を通じ、歴史的景観の維持向上を図ることができた。

●岡崎城公園等におけるサイン・案内板整備(図2)

歴史文化資産の価値と魅力をわかりやすく発信するため、歴史文化資産の解説板を岡崎城公園に設置した。また、まちなかをわかりやすく快適に巡るための案内サインを整備した。これにより、市民や来訪者の歴史文化資産に対する認知度と理解度の向上に貢献でき、また、まちなかの回遊性の向上にも寄与することができた。

●歴史まちづくりシンポジウムの開催、歴史的風致PR動画の制作

「家康公生誕の地にみる歴史的な風情を磨く」をテーマにしたシンポジウムの開催(H28)やPR動画の制作(R3)により、家康公ゆかりの歴史文化資産の情報発信を行い、歴史的風致の普及啓発を図ることができた。



図1: 電線・電柱の移設による大樹寺から岡崎城天守への眺望景観の変化



図2: 歴史文化資産解説板

③ 自己評価

文化財保存活用地域計画の策定により、文化財の保存・活用の方針と措置を定めた。

また、サイン・案内板等の整備だけでなく、3代将軍家光が設けたビスタラインの魅力を高めようと、現在の市街地で支障となっている電柱、電線を移設する取り組みは、市民からの強い要望を受け継いで実施したものであり、市民とともに取り組む歴史的風致の維持・向上を進めていく上で、大きな効果をもたらしている。

④ 今後の対応

大樹寺から岡崎城天守を望む歴史的眺望(ビスタライン)の支障となっている電線の移設や既存不適格建造物の改修等を行い、魅力的な市街地景観の形成を進めるとともに、文化財建造物等の歴史的建造物の復元・修理・修景を進め、歴史文化資産の保存・活用を図る。

また、保存された歴史文化資産等を市民や来訪者に巡ってもらい、地域活性化や観光振興に貢献できるよう、サイン・案内板の整備を引き続き実施していく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	2.東海道を舞台にした信仰・祭礼等にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進 IV 歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成 V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開		

① 歴史的風致の概要

江戸時代には街道を通じて秋葉信仰が盛んになり、街道沿いの町や村、街道の三叉路等には秋葉山常夜燈が数多く建立され今も残っている。毎年、町内会等を通じて秋葉山の御札を代参により求め、家内で御札を祀る風習が広がっている。

また、東海道東の本宿神明社の祇園祭と西の矢作神社の祭礼では、神輿や山車が巡行し、津島神社の天王祭りは夏病み防止と虫送りを願う竿燈行列が町中を巡る。三河地方に特徴的な田遊びの歌詞に由来する山中八幡宮のデンデンガッサリは、正月3日に太鼓と大鏡餅により五穀豊穡を祈る。江戸時代の東海道37番目の宿場町・藤川宿にある称名寺と十王堂、中世の宿駅地名が残る岡町、大平一里塚のある大平町では、集落の子どもたちと街道を行き交う人々を見守る地蔵に感謝する地蔵まつりが今も続けられている。

② 維持向上の経緯と成果

●無形民俗文化財等調査支援等事業(図1、2)

岡崎市文化財保存事業費補助金交付要綱等に基づき、指定文化財等の保存育成に対して、活動費の一部を支援した(指定:山中八幡宮のデンデンガッサリ/未指定:本宿神明社の祇園祭、津島神社の天王祭り、十王堂の地蔵まつり、矢作神社の祭礼)。これにより、後継者の育成、使用道具等の維持等、伝統行事の保存や伝承に寄与した。

●歴史的建造物修理・修景事業(図3)

岡崎市景観形成補助金等交付要綱等に基づき、景観重要建造物及び歴史的風致形成建造物の外観等の保全に必要な修理・修景費用の一部を支援した(景観重要建造物:旧野村家住宅(米屋)、アイチ味噌溜店舗/歴史的風致形成建造物:十王堂、甲山寺本堂、旧富田家住宅等)。十王堂は、古写真を基に復原された。これらにより、歴史的建造物の保全を図るとともに、歴史的なまちなみ景観の形成に貢献した。

●歴史的建造物復元等整備事業(図4)

旧本宿村役場を歴史資料館として復原し、歴史的価値及び魅力の向上を図ることができた。

●まちなみ景観整備事業

岡崎市まちなみ修景補助金交付要綱に基づき、旧東海道から望みえる建築物等の外観の修理・修景費用の一部を支援した(十王堂外構等、個人住宅屋根、外壁、塀等)。これにより、歴史的なまちなみ景観の形成に貢献した。

●歴史まちづくりシンポジウムの開催、歴史的風致PR動画の制作

「東海道を舞台にした信仰・祭礼等にみる歴史的な風情を磨く」をテーマにしたシンポジウムの開催(H29)や、PR動画の制作(R4)により、歴史的建造物やその周辺で行われる人々の営みについて情報発信を行い、歴史的風致の普及啓発を図ることができた。



図1:市指定民俗文化財
山中八幡宮のデンデンガッサリ



図2:本宿神明社の祇園祭



図3:景観重要建造物
アイチ味噌溜店舗(H28修景)



図4:歴史的風致形成建造物
旧本宿村役場(R4復原)

③ 自己評価

歴史的風致形成建造物や景観重要建造物の修理・修景等(17件)により、歴史的建造物そのものの保全を図るだけでなく、それらが構成する歴史的な趣きの残るまちなみ全体の保全につながっている。

また、そうした建造物と併せて、伝統的な祭りや行事に対する支援を行うことで、歴史的風致の維持・向上にも寄与している。

④ 今後の対応

無形民俗文化財の保存育成に関する継続的な支援を行い、維持継承に寄与する他、普及啓発を行い周知を図る。歴史的建造物についても継続的な支援を行い、所有者等と協議した上で、保存・活用を図っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	3. 滝山寺鬼祭りにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進 IV 歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成 V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開		

① 歴史的風致の概要

瀧山寺鬼祭りは、旧暦正月7日、五穀豊穡を祈る寺院の正月行事である修正会と、大晦日の夜に悪鬼を払う宮中行事である追儺式が変化した鬼祭り、火祭りが一体となって行われ、鎌倉時代、源頼朝の祈願に始まると伝わる。江戸時代には、3代将軍家光の命により、東照宮の建立とともに、祭りは徳川幕府の行事として盛大に行われることとなる。

祭りの舞台となる滝山寺本堂、滝山東照宮、日吉山王社は、同じ境内に配置されており、中近世の神仏習合の様相と各建物が一体となった景観を背景に、本堂に松明30数本が持ち込まれ、半鐘、双盤、太鼓を乱打し、ほら貝が吹き鳴らされる。

はじけ飛ぶ火の粉、鳴り響く音、炎の熱気に包まれる中、祖父面・祖母面・孫面の3匹の鬼が乱舞し、祭りは最高潮を迎える。

② 維持向上の経緯と成果

●無形民俗文化財等調査支援等事業(図1)

瀧山寺鬼祭り(重要無形民俗文化財)の保存育成に対し、岡崎市文化財保存事業費補助金により活動費の一部を助成した。また、祭りの保存継承を目的とする文化財調査を行い、報告書を取りまとめ、記録映像を作成した。これらにより、後継者の育成や本来の祭礼の記録等、伝統行事の保存及び伝承に寄与することができた。



図1: 重要無形民俗文化財
瀧山寺鬼祭り

●文化財建造物保存修理事業(図2)

滝山東照宮本殿、幣殿、拝殿(国指定重要文化財)及び日吉山王社本殿(市指定文化財)の保存修理に対し、岡崎市文化財保存事業費補助金により修理費の一部を助成した。保存修理にあたっては、民間組織による協賛金を集める活動も展開されるなど、公民が連携して取り組んだ。これにより、瀧山寺鬼祭りの舞台となる歴史的景観が向上した。



図2: 国指定重要文化財
滝山東照宮本殿(R3～7保存修理)

●滝山寺地区におけるサイン・案内板整備(図3)

歴史文化資産の価値と魅力をわかりやすく発信するため、歴史文化資産の解説板(2基)を設置した。解説板上の二次元コードからアクセスできるWebサイトでは、他地区の歴史文化資産の解説を見ることができる。これにより、市民や来訪者の歴史文化資産に対する認知度と理解度の向上に貢献できた。

●歴史的風致PR動画の制作

PR動画の制作(R6)により、歴史的建造物やその周辺で行われる人々の営みについて情報発信を行い、歴史的風致の普及啓発を図ることができた。



図3: 歴史文化資産解説板(R5、6)

③ 自己評価

文化財調査や活動費の助成により、伝統行事の継承や歴史的建造物との関係性の調査などが進められたほか、歴史的風致を構成する歴史的建造物である滝山東照宮本殿ほか2棟及び日吉山王社本殿の保存修理が進められ、歴史的景観の向上など歴史的風致の維持向上が図られた。

④ 今後の対応

瀧山寺鬼祭りの保存育成等の活動に対し、継続的な支援を行いながら、民俗文化財調査の結果や記録映像を活用し、広く普及啓発を図る。また、歴史的建造物についても、継続的な支援を行い、所有者等と協議した上で、保存・活用を図っていく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	4.岡崎城下の三大祭りにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進 IV 歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成 V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開		

① 歴史的風致の概要

岡崎城下の三大祭りとは、菅生祭・岡崎天満宮例大祭・能見神明宮大祭のことである。
江戸時代の岡崎は、神君家康公の生誕地・岡崎城の城下町、東海道の宿場町としてまちが形成された。城下では、産土神や氏神の神事や祭礼に合わせて華やかな祭りが行われ、次第に氏子が主役となって参加する形が生まれ、地域生活に根ざしたものになっていった。
菅生祭は、菅生神社での厄災除去を祈願した祭礼が始まりで、現在は乙川に鉾船が出され、船中から手筒花火が奉納される。岡崎天満宮例大祭は、岡崎宿で行われた祭礼で、現在でも長持ち唄を歌いながら市街地を練り歩く行列が見られる。能見神明宮大祭は、江戸時代中期に始まり、「御神輿渡御」の数百メートルの行列は、まさに平安絵巻と呼ぶにふさわしいものである。

② 維持向上の経緯と成果

●文化財保存活用地域計画の策定

「岡崎市文化財保存活用地域計画」を策定し、「東海道の息づく歴史文化」を関連文化財群に位置付けた。措置として能見神明宮大祭の民俗文化財調査を行い、価値の顕在化を図ることにより、岡崎城下の三大祭りにみる歴史的風致の維持向上に寄与した。

●無形民俗文化財等調査支援等事業(図1、2、3)

菅生祭(未指定)及び能見神明宮大祭(未指定)の保存団体に対し、岡崎市歴史的風致形成活動事業費補助金及び岡崎市観光事業振興費補助金により活動費の一部を助成した。

- ・提灯、締太鼓、法被等の新調、山車用発電機の購入
- ・山車小屋(床、シャッター等)の修繕
- ・社名旗一式の新調と修繕
- ・祭礼行列絵図看板製作
- ・能見神明宮山車引廻し(神楽舞い、山車揃え等の保存伝承)
- ・菅生祭(奉納花火等の保存伝承)

これらにより、祭礼の伝承に寄与することができた。

●歴史まちづくりシンポジウムの開催(H30)

保存活動団体の代表にも参加いただき、「岡崎城下三大祭りにみる歴史的な風情を磨く」をテーマにシンポジウムを開催した。

歴史と伝統を反映した活動の継承や歴史文化資産を活かしたまちづくりについて情報発信を行い、歴史的風致の普及啓発を図ることができた。



図1：法被の新調
(菅生祭)



図2：提灯の新調
(能見神明宮大祭)



図3：能見神明宮大祭
山車引き廻し

③ 自己評価

未指定文化財であっても、その保存と継承に対して費用助成することで、伝統行事の継承など歴史的風致の維持向上が図られた。

菅生神社前の通りは道路美装化により景観が向上したほか、保存団体の積極的な情報発信や、シンポジウムの開催により、歴史的風致の普及啓発が図られた。

④ 今後の対応

無形民俗文化財の保存育成に関する継続的な支援を行うとともに、映像撮影等による活動の記録保存や民間・教育機関等との連携を検討し、後継者育成等に役立てていく。能見神明宮大祭については、民俗文化財調査を通して価値の顕在化を図り、保存・活用に寄与していく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	5.郷土食の八丁味噌造りに見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進 IV 歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成 V 歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開		

① 歴史的風致の概要

全国に名が知られる八丁味噌は、黒壁の蔵並みが続く八丁町で、江戸時代初期から、旧東海道を向かい合う2軒の老舗が、二夏二冬の長期熟成の伝統製法で造り続けている豆味噌である。

この地は、南北の矢作川の舟運と東西の東海道が交わる水陸交通の要衝にあり、江戸時代には矢作川に土場(船着場)、岡崎宿に塩座(塩の専売)が置かれたことから、原料となる大豆や塩を入手しやすく、また、良質な湧水や温暖な気候風土などが、味噌造りにとって好立地であった。

水分が少なく保存性が良く、携帯するのに便利なおかげから、三河武士の兵糧として重用されたほか、徳川家康公の関東移封を機に、三河譜代の大名や旗本、参勤交代やお伊勢参りといった東海道を行き交う人々を通じて広く全国に知られ、多くの人々に親しまれるようになった。

② 維持向上の経緯と成果

●無電柱化事業(図1)

八丁地区景観形成重点地区内の景観重要道路である市道2路線において、電線共同溝整備による無電柱化を進めている。(電柱及び電線撤去前)

●歴史的建造物修理・修景事業(図2、3)

まるや八丁味噌土蔵(景観重要建造物)の外壁の修理・修景に対し、岡崎市景観形成補助金等交付要綱により工事費の一部を助成し、歴史的景観の向上を図ることができた。

●まちなみ景観整備事業

景観計画に定めた景観配慮指針や基準に適合する建築物や工作物の外観修景に対し、岡崎市まちなみ修景補助金により修景費用の一部を助成した。

- ・まるや八丁味噌(門扉改修、木塀設置、板塀修景、蔵の板壁修景)
- ・合資会社八丁味噌(蔵の屋根及び外壁修景(移設工事の一部))
- ・個人住宅(木塀設置、板塀塗装、外壁塗装等)

これにより、景観重要建造物の味噌蔵周辺の一般建造物の修景が促進され、まちなみ景観の向上に寄与することができた。

●歴史まちづくりシンポジウムの開催、歴史的風致PR動画の制作(図4)

味噌製造事業者に参加・協力いただき、「郷土食の八丁味噌造りにみる歴史的な風情を磨く」をテーマにしたシンポジウムの開催(R1)及びPR動画の制作(R5)を行った。シンポジウムでは、郷土食の八丁味噌造りが醸し出す歴史的風致が、現代の人々の暮らしや愛情と誇りの醸成にどのようにつながっているのか、また、歴史文化資産をどのように持続的に継承し、地域活性化や観光振興につなげていくのかについての議論を行い、情報発信と普及啓発を図ることができた。



図1:市道中岡崎8号線の無電柱化



図2:景観重要建造物
まるや八丁味噌土蔵(R4板壁修景後)



図3:景観重要建造物
合資会社八丁味噌(H30外壁修景後)

③ 自己評価

無電柱化や補助金を活用した建造物等の外観修景(味噌製造事業者5件、個人住宅11件)により、歴史的景観に見合った良好な景観形成を地区全体で進めることができた。

また、シンポジウムやPR動画を通じて、歴史文化資産の周知や魅力発信を行い、歴史的風致の普及啓発が図られた。



図4:歴史的風致PR動画(R5)

④ 今後の対応

無電柱化を行った市道2路線について、道路美装化を行い、更なる歴史的景観の向上を図る。また、引き続き景観上の核となる景観重要建造物や、旧東海道や味噌蔵が続く通り(景観重要道路)沿いの一般建造物の外観修景に対する支援を行い、地区全体のまちなみ景観の向上を図り、歴史的風致を維持・向上していく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	6.六ツ美地区の稲作儀礼にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進		

① 歴史的風致の概要

六ツ美地区は、原始より矢作川の氾濫原にあたる肥沃な土地として、近世以降、灌漑用水の整備や耕地整理等が進み、先進的な農業地域として発展した歴史を持つ一方で、江戸時代の岡崎藩の農民支配体制の施策と相まって「御田扇祭り」等の独特の祭礼行事や稲作儀礼が生まれた。

この祭りは、旧暦6月に御輿渡御と御田扇が巡行し五穀豊穡を祈るもので、虫送りや伊勢御師の活動と結びついた他に類をみない民俗行事である。田園地帯を幟や紅白の扇、花傘が持った人々が練り歩く様には、豊作を願う思いが表れている。また、大正4（1915）年の大正天皇即位の大嘗祭には「悠紀斎田」に六ツ美村中島の田が選ばれた。大嘗祭終了後も、斎田地は地域で大切に保存され、毎年6月に、これを記念した「お田植えまつり」が現在も続く。

② 維持向上の経緯と成果

●文化財保存活用地域計画の策定

「岡崎市文化財保存活用地域計画」を策定し、「岡崎が育んだ伝統産業」を関連文化財群に位置付け、その保存活用のための事業を進めることにより、六ツ美地区の稲作儀礼にみる歴史的風致の維持向上に寄与した。

●無形民俗文化財等調査支援等事業（図1、2）

稲作儀礼の一つに位置付けられる、「大嘗祭悠紀斎田（田植唄、踊り、用具、装束一式）」及び「山方手永御田扇祭り」（市指定無形民俗文化財）の保存団体に対し、岡崎市文化財保存事業費補助金により活動費の一部を助成した。これにより、後継者の育成、使用道具等の維持など伝統行事の保存や伝承に寄与することができた。

●香川県綾川町と「斎田ゆかりの地交流提携」を締結（図3、4）

岡崎市（旧碧海郡六ツ美村大字中島字丸の内）と香川県綾川町（旧綾歌郡山田村）は、大正4（1915）年、大正天皇即位の大嘗祭で、「悠紀斎田」と「主基斎田」に選ばれたことを機に、「お田植えまつり」を始めとする斎田の保存・継承活動を行うとともに相互に交流を深めてきた。

交流開始から30年の節目となる令和元（2019）年6月2日、文化財の保存や伝統文化の継承における民間交流を活発化するため、両市町の間で交流提携を締結した。その後、交流提携のパンフレットの作成や、交流記念展の開催など、斎田をはじめとした稲作儀礼の情報発信を行った。また、石製品（ベンチ）を寄贈し、設置いただくことにより、伝統工芸品である石製品を周知することができた。



図1：大嘗祭悠紀斎田



図2：山方手永御田扇祭り



図3：斎田ゆかりの地 交流記念展（R1/5/7～5/17）の様子



図4：斎田ゆかりの地・綾川町に寄贈した石製品のベンチ（R3）

③ 自己評価

六ツ美地区では、これまで受け継いできた稲作儀礼が、当該地区のコミュニティの形成と維持にも貢献しており、近年、宅地化が進みつつも、その伝承に地域をあげて取り組んでいる。

こうした地域のまとまりや団結力にも影響を及ぼす稲作儀礼の活動への継続的な支援のほか、交流提携などによる普及啓発により、保存団体の活動の継承に寄与することができた。

④ 今後の対応

無形民俗文化財の保存育成のためには、引き続き、補助金による活動支援が必要である。今後も、調査や記録の重要性等を踏まえ、新たな支援策を検討しながら、継続して支援していく。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
歴史的風致	7.額田地区の山里のくらしにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史文化遺産の調査研究と普及啓発の推進 II 歴史や伝統を反映した活動の継承への支援 III 歴史的建造物の保存・活用の推進		

① 歴史的風致の概要

三河高原の西端に位置する額田地区は、急峻な山林の間に山里が営まれ、山間部に通じる街道により、岡崎市街、信州等と関わりながら特有の文化を育んできた。

千万町の神楽は春祭りに豊作と悪魔祓いの願いを込めて嫁(娘)獅子神楽を奉納する。須賀神社の祭礼山車と祭りばやしでは4台の山車が巡行する。夏山八幡宮の火祭りは神火からの燃え木で参拝者を追い息災を祈る勇壮な火祭りである。宮崎神社「オトウの神事」(オトウダイコン)では200本以上の大根の味噌煮の準備と神迎えを、石座神社の「神迎え神事」(アマザケトウ)では神饌の甘酒等の準備や供献を、クジで選出した当(頭)屋が行う祭祀である。大代町と両山町では田畑仕事開始の2月8日のコト八日行事として、子どもが集落境まで悪霊を憑依させた人形を送る「オカタ送り」が行われているなど、多彩な民俗行事が残る。

② 維持向上の経緯と成果

●文化財保存活用地域計画の策定

「岡崎市文化財保存活用地域計画」を策定し、「岡崎が育んだ伝統産業」を関連文化財群に位置付け、その保存活用のための事業を進めることにより、額田地区の山里のくらしにみる歴史的風致の維持向上に寄与した。

●無形民俗文化財等調査支援等事業(図1)

岡崎市文化財保存事業費補助金交付要綱に基づいて、額田地区の山里のくらしに密着した、市指定無形民俗文化財「須賀神社祭礼山車及び祭りばやし」及び「夏山八幡宮火祭り」の活動費等の一部を支援した。これにより、後継者の育成、使用道具等の維持等、伝統行事の保存や伝承に寄与した。

●文化財建造物保存修理事業(図2)

天恩寺仏殿(国指定重要文化財)の屋根の葺き替え等、保存修理費用の一部を支援し、保存修理を行った。これにより、地域に残る歴史的建造物の保全に寄与するとともに、歴史的風致の維持向上に貢献した。



図1:須賀神社祭礼山車



<修理前(R1)>



<修理後(R2)>

図2:国指定重要文化財
天恩寺仏殿の保存修理


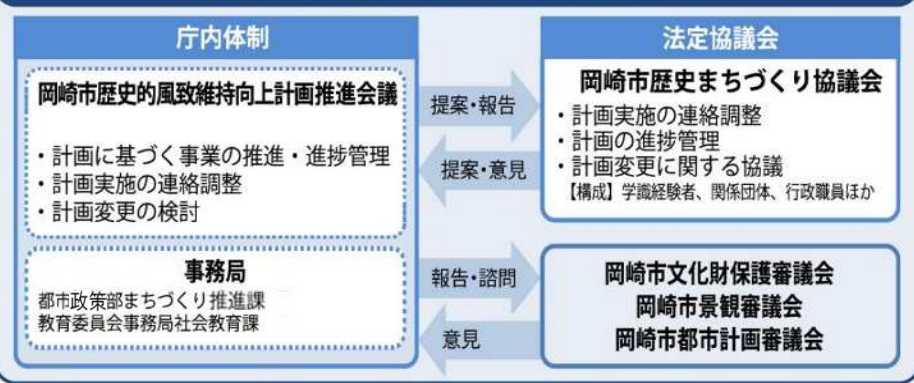
③ 自己評価

山里に暮らす人々が長年受け継いできた伝統行事の活動を支援することは、地域の個性や文化を支えることとなり、本歴史的風致の維持向上にも寄与することができた。

また、指定文化財の保存修理等、目に見える形で歴史的資源を残すことは、地域の歴史や伝統文化に触れることとなり、地元住民の意識向上や誇り・愛着の醸成にも寄与したと判断される。

④ 今後の対応

額田地区の歴史的風致を構成する歴史的建造物等について、今後も保存修理等を行い、歴史的風致の維持向上を図る。また、歴史的風致の重要な構成要素である山里の暮らしと、それにまつわる無形民俗文化財等について、長期的視点で補助金等による活動支援を行い、活動が途絶える事が無いよう伴走する。

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
① 庁内組織の体制・変化 <p>庁内組織である「岡崎市歴史的風致維持向上計画推進会議」及びその下部組織の「岡崎市歴史的風致維持向上計画推進部会(R3廃止)」を開催し、行政内部における計画の進行管理及び連絡調整を行った。また、「岡崎市歴史まちづくり協議会(法定協議会)」を開催し、各事業の進捗報告における意見聴取を行った。さらに、組織改正により、歴史まちづくりの進行管理を行う課の設置等の庁内体制の強化を図り、事業の着実な推進を図ることができた。</p>			
		 <p>歴史的風致維持向上計画推進会議 (R5/8/10)</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 65%;"> <p style="text-align: center;">岡崎市歴史的風致維持向上計画 推進体制</p>  </div> <div style="width: 30%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>庁内関係課(推進会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくり推進課 社会教育課 企画課 広報課 地域創生課 財政課 文化振興課 中央図書館 商工労政課 観光推進課 道路維持課 都市計画課 建築指導課 公園緑地課 建築課 学校指導課 </div> </div>			
② 庁内の意見・評価 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風致維持向上計画の事業推進にあたり、事業担当部署間において、密に連絡・調整を取り、連携強化を図りながら、歴史まちづくりという視点で取り組みを実施していく必要がある。 ・例えば、歴史的建造物の保存・活用にあたっては、文化財としての価値判断、観光や集客の面からの活用方法の検討、建築基準法等の法令遵守など、多方面からのアプローチが必要なため、今後も十分な庁内の連携体制をとる必要がある。 ・事業を実施していく中で、情報発信を強化し、市民をはじめとする多くの人に、本市の歴史文化資産の魅力を発信するとともに、歴史まちづくり事業の必要性を認識してもらう必要がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大をきっかけとして、新しい生活様式(ニューノーマル)の注目が高まっている。その中心であるデジタル技術の活用促進により、歴史的建造物の保存・活用や、情報発信等の施策のDX(デジタルトランスフォーメーション)化を推進していく必要がある。 ・歴史まちづくり事業は、ハード・ソフトの多岐にわたり、重点区域も広域である。期間や財源も限られる中、事業効果の早期発現には、集中的かつ一体的な整備が必要なため、事業の優先度を明確にしていかなければならない。 ・一方で、計画期間のうち、大規模なハード整備を伴う事業は、関係事業との相乗効果が見込める場合を除き、財源の平準化の観点から、他事業の進捗状況を踏まえて実施していく必要がある。 ・計画に基づく施策や事業は、将来的には、地域での伝統的な人々の活動が自律的かつ持続的に行われる仕組みづくりにつながるよう、常に意識して進めていく必要がある。 			

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年																								
<p>① 住民意見</p> <p>■ 歴史まちづくりに関する市民アンケート調査（令和6年6月10日～7月15日実施）より（有効数248人）</p> <p>・「歴史的な資源が豊富なまちである」と感じる人は90%を示し、また、「歴史的な資産やそれらが作り出す雰囲気が良くなった／どちらかといえば良くなった」と感じる人が61%と高い割合を示しているため、取り組みの効果が一定程度みられる。一方で、「わからない」と感じる人が28%みられ、一層の取り組みの推進及び効果的な普及啓発が求められると推測される。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>岡崎市は歴史的な資産（建物や祭礼行事等）が豊富なまちであると思いますか？</p> <table border="1"> <caption>歴史的な資産に関する認識</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>そう思う</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばそう思う</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえばそう思わない</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>最近、市内において歴史的な資産やそれらが作り出す雰囲気が良くなったと感じますか？</p> <table border="1"> <caption>歴史資産の雰囲気に関する認識</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>良くなったと感じる</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば良くなったと感じる</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば悪くなったと感じる</td> <td>13%</td> </tr> <tr> <td>悪くなったと感じる</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>■ そう思う</p> <p>■ どちらかといえばそう思う</p> <p>■ どちらかといえばそう思わない</p> <p>■ そう思わない</p> <p>■ わからない</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>■ 良くなったと感じる</p> <p>■ どちらかといえば良くなったと感じる</p> <p>■ どちらかといえば悪くなったと感じる</p> <p>■ 悪くなったと感じる</p> <p>■ わからない</p> </div> </div> <p>■ パブリックコメント（令和7年12月8日～令和8年1月8日実施）でいただいた意見は、以下のとおり。</p> <p>.</p>				回答	割合	そう思う	50%	どちらかといえばそう思う	40%	どちらかといえばそう思わない	7%	そう思わない	2%	わからない	1%	回答	割合	良くなったと感じる	48%	どちらかといえば良くなったと感じる	28%	どちらかといえば悪くなったと感じる	13%	悪くなったと感じる	7%	わからない	4%
回答	割合																										
そう思う	50%																										
どちらかといえばそう思う	40%																										
どちらかといえばそう思わない	7%																										
そう思わない	2%																										
わからない	1%																										
回答	割合																										
良くなったと感じる	48%																										
どちらかといえば良くなったと感じる	28%																										
どちらかといえば悪くなったと感じる	13%																										
悪くなったと感じる	7%																										
わからない	4%																										
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>■ 法定協議会（令和8年2月●日実施）でいただいた意見は、以下のとおり。</p>																											

市町村名	岡崎市	評価対象年度	H28～R7年
① 全体の課題 <ul style="list-style-type: none"> ●歴史文化資産の調査研究と普及啓発の推進に関すること 本市の歴史文化資産の調査研究や普及啓発の取り組みを推進しているものの、依然として、地域においてのみ認識されている歴史文化資産が数多く存在している。これらは、身近なものであるにもかかわらず、その価値や魅力に気づいていないものも多い。 ●歴史や伝統を反映した活動の継承への支援に関すること 長い歴史の中でも現在に受け継がれている、瀧山寺鬼祭り等の伝統行事や岡崎石工品等の伝統工芸品については、少子高齢化等による後継者不足により、文化や技術の継承が課題となっている。 ●歴史的建造物の保存・活用の推進に関すること 歴史的建造物については、文化財行政と景観行政の両面から保存・活用の支援を行ってきた。しかしながら、それは一部にすぎず、建造物の価値が認識されないまま、老朽化や滅失等の課題を抱えている。 ●歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成に関すること 歴史的建造物の周辺では、屋外広告物や電柱電線類による景観の阻害も多く、歴史的風致の魅力を減退させる一要因となっている。歴史的建造物周辺の空き地が中高層建築物や駐車場へ転用され、結果的に歴史的風致の維持向上を図ることができない。 ●歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開に関すること 本市は数多くの歴史文化資産に恵まれているが、その多くは歴史や伝統の価値が十分に認識されておらず、市民の誇りと愛着の源泉となることはもとより、地域活性化や観光振興に寄与する可能性についても理解が十分とはいえない。また、コロナ禍や大河ドラマ等を経て変化する観光需要に対して柔軟に対応する必要がある。 			
② 今後の対応 <ul style="list-style-type: none"> ●歴史文化資産の調査研究と普及啓発の推進に関すること 「岡崎市文化財保存活用地域計画」等の関連計画を踏まえ、今後も、本市の歴史文化の魅力や価値の情報発信等の普及啓発の取り組みを一層推進していくことに加えて、調査結果の活用や、歴史まちづくりへの参加機会の提供について検討し、更なる市民意識及び認知度の向上を図る。 ●歴史や伝統を反映した活動の継承への支援に関すること 歴史や伝統を反映した民俗文化財や伝統産業等の歴史文化資産について、全体把握を行うとともに、新たな支援策等を模索しながら、引き続き継承活動に対する支援を行っていく。 ●歴史的建造物の保存・活用の推進に関すること 文化財や景観行政による歴史的建造物の修理・修景等に対する支援策を継続するほか、先端技術の活用や民間活力の導入等により、持続的な保存・活用を目指し、歴史的まちなみ景観等の維持向上を図っていく。 ●歴史的建造物の周辺等における良好な市街地景観の形成に関すること 歴史的建造物周辺のまちなみ景観を維持向上するため、景観の規制誘導を図る景観形成重点地区の指定について地元の合意を得ながら促進するとともに、無電柱化等の景観阻害要素への対応を計画的に実施していく。 ●歴史文化資産を活かした地域活性化や観光振興の展開に関すること 引き続き、「点」で存在している歴史文化資産を一定のテーマやストーリーでつないだ「観光周遊ルート」の形成を行うほか、アフター大河等を踏まえ、観光施策や受入環境の整備、情報発信の工夫に取り組む、来訪者等の利便性や満足度の向上を図っていく。 			